

二〇二二年五月七日

泣き声で喧嘩勝つ子や子どもの日
カーネーション百の蕾の押しくらに
京町屋燕も避ける鐘馗さん
酸葉囓む土手に閉ぢたる渡船小屋
青芝に側転競ふ少女どち
囀ずりの零るる樹下に太極拳
遠近にエンジン響く代田搔き

二〇二二年五月六日

草引けばバネの弾けしごと蚯蚓
ひこばえが隠す大樹の名札かな
蒲公英の絮へさしだす掌
分け合ひぬ野辺のベンチによもぎ餅
麦秋の中より現るる郵便車
雨晴れてほつれ繕ふ女郎蜘蛛
寄せ墓を包む大樹の若葉影
リホームのま白き壁に柿若葉

二〇二二年五月五日

肩車して軒に差す鯉幟
迎え撃つ爺二刀流子どもの日
校了し窓開け放つ薫風裡
慈母観音まるき背中に若葉風

二〇二二年五月四日

切つ先の尖がるを選び菖蒲買ふ
競漕のオールが掴む瀬田の水
豆ごはん振る舞ひて豆売りにけり

なつき
あひる
凡士
なつき
せいじ
みきお
素秀
明日香
なつき
なおこ
あひる
宏虎
智恵子
ぼんこ
満天
素秀
なつき
むべ
たか子

たか子
凡士
なおこ

夕散歩畔の野の花摘みもして
雨蛙伸ばす右足左足
デイケア車到着を待つ薫風裡

二〇二二年五月三日

天つ藤屑こぼしをる遥拝所
行く春の川原にひとりハーモニカ
魚屋のあるじ饒舌初鯉
借景は真白き穂高鯉のぼり
水茄子の絵が張り出され漬物屋

二〇二二年五月二日

芯こぞり立つ百態の城の松
浜焼きの香が吾を呼ぶ初夏の風
突風を切り裂くごとくつばくらめ
旅僧のつと立ち止まる青嵐
柏散る百葉箱に嵩なして
道祖神在ます矢倉に鯉のぼり

二〇二二年五月一日

吟行もできぬコロナ禍春惜しむ
憂きことを洗ひ流せよ若葉雨
舫ひたるマストに泳ぐ鯉のぼり
若鮎を狙ふ大また堰の鷺

はく子
明日香
せいじ
なおこ
凡士
宏虎
凡士
あひる
なつき
智恵子
豊実
もとこ
素秀
智恵子
智恵子
たか子
凡士
素秀

毎日句会みのる選・二〇二二年五月九日